

帝国陸軍の石井四郎軍医満州第731部隊を組織し活動した足跡を2等軍医時代から軍医中将に昇りつめるまでを迫っている。公文書などの資料だけではなく、小説なども利用し、一軍医に過ぎない石井が陸軍で跋扈できた雰囲気が伝わってくる。さらに、中国で刊行された著作が多数紹介されており、中国の人々が731部隊をどう見ているかを知る手がかりが得られる。

神奈川大学名誉教授

(731部隊研究) 常石敬一

川村 一之 Kawamura Kazuyuki

1945年以前の世界で、日本は細菌戦を本格的に実施した最初にして唯一の国である。日本軍は、1940年から42年にかけて中国十数地域に対し、731部隊が独自に発明した「ペスト感染ノミ(PX)」を空中か地上で撒布し、「黒死病」犠牲者を多數生みだした。本書は、1931年満州事変勃発を契機として陸軍軍医学校防疫研究室(主幹は石井四郎)がまず満洲の背蔭河に「東郷部隊」を、次いでハルビン郊外平房に「満州特殊研究室」(主幹は石井四郎)が731部隊をつくり細菌兵器の研究・製造に邁進し、PXの効果を検証するために「1940年農安・新京ペスト」を発生させるまでの細菌戦準備過程を緻密に分析した、731部隊研究史上画期的な著作である。

慶應義塾大学名誉教授 松村高夫

主要論文に、「『黒死病』の背景」(西田勝編『黒死病—加藤秀造小説集』不二出版、2021年4月)、「公文書管理法の施行とアーカイブス」(日本の戦争責任資料センター『戦争責任研究』第72号、2011年夏季)、「標本という名の『死体』—人骨の会の20年」(人骨問題を究明する会『国に問われる責任』樹花舎、2009年7月)、「戦時記録の公開の現状と市民活動」(明治学院大学国際平和研究所『PRIME』第18号、2003年10月)など。

〈関連図書のご案内〉

西田 勝編『黒死病—加藤秀造小説集』

黒死病
凍った河
シベリアから還った息子
『黒死病』の背景(川村一之)
解説(西田勝)
略年譜



2021年4月刊行 四六判並製
定価3,135円(本体価格2,850円+税10%)
ISBN978-4-8350-8461-9 C0093

本単行本『七三一部隊 1931-1940 —「細菌戦」への道程—』は、西田勝編『黒死病—加藤秀造小説集』(不二出版、2021年4月)に所収された川村一之「『黒死病』の背景」をもとに大幅に増補・加筆を施したもの。

また、「付録資料」の高橋正彦「昭和15年農安及新京ニ発生セル「ペスト」流行ニ就テ 第1編 流行ノ疫学的観察(其ノ1) 農安ノ流行ニ就テ」(『陸軍軍医学校防疫研究報告第2部第514号』1943年4月)、同「昭和15年農安及新京ニ発生セル「ペスト」流行ニ就テ 第1編 流行ノ疫学的観察(其ノ2) 新京ノ流行ニ就テ」(『同第515号』1943年4月)は、『十五年戦争極秘資料集補卷23陸軍軍医学校防疫研究報告第6巻』(不二出版、2005年7月)から転用したものです。

〈不二出版編集部〉

〈目次〉

- はじめに
- 第1章 ペスト「防疫」1940
- 第2章 「七三一部隊」前史
- 第3章 満洲「コレラ」調査班と
関東軍臨時防疫班
- 第4章 石井四郎「欧洲視察」
- 第5章 濾水機開発の不条理
- 第6章 背蔭河「マルタ」脱走事件
- 第7章 「満洲防疫機関設立」
- 第8章 ノモンハン「細菌謀略戦」
- 第9章 七三一部隊「航空班」
- 第10章 謀略の真偽
- 補説 陸軍科学研究所が「満洲」で人体実験
——浮かび上がった安達部隊の存在

あとがき

付録資料 高橋正彦「昭和15年農安及新京ニ発生セル「ペスト」流行ニ就テ」(1943年)

七三一部隊 1931-1940 —「細菌戦」への道程—

川村 一之(著)

2022年12月刊行 A5判上製・総248頁 定価3,960円(本体価格3,600円+税10%)

ISBN 978-4-8350-8584-5 C0021

常石敬一(神奈川大学名誉教授)推薦
松村高夫(慶應義塾大学名誉教授)推薦

不二出版

注文カード	注文日 月 日	帖合・貴店名	書名	注文数
		川村一之 著 七三一部隊 1931-1940 —「細菌戦」への道程	定価3,960円(本体価格3,600円+税10%) ISBN978-4-8350-8584-5 C0021	冊
		ご担当者様	発行=不二出版	お名前